

# 清泉女子大学発展協力会 活動のご報告

2023年6月

## 会長挨拶

平素より発展協力会の活動にご理解とご支援を賜っており、厚く御礼を申し上げます。

近年のわが国18歳人口急減（2014年度118万人→2024年度106万人と、直近10年で1割減）や卒業後を見据えての共学志向（女子大離れ）といった社会環境変化を始めとする様々な要因により、数年来定員割れが続いていた一部女子大が来年度以降の学生募集停止に追い込まれるなど、今日わが国女子大を取り巻く経営環境は、かつてない厳しさを見せています。昨年度来定員割れとなっている本学にとっても決して他人事ではなく、予断を許さない厳しい状況が続いています。

こうした中、「本学の財務基盤強化、そして大学としての使命達成に向け少しでも役に立てれば」と、1996（平成8）年に学内の募金機関として「維持発展協力会（現“発展協力会”）」を設立し、尽力してこられた故シスター栗山を始めとする先人達の思いを忘れることなく、当会活動を着実に前進させ、本学発展のために少しでも寄与すべく、ベストを尽くしてまいり所存です。

直近10年間の当会へのご寄付推移を見ますと、その時々々の経済・社会情勢などで多少の変動はありますが、ご寄付件数では、年間600～800件で、一方ご寄付金額では年間600～1,500万円で推移してきました。

発展協力会では、皆様からの貴重なご寄付を「学業奨励奨学金」「チャレンジ支援奨学金」「グローバル人材育成支援」「清泉女子大学発展協力会奨学金（貸与型）」「キャンパスキャスト等への支援」「ボランティア支援」「ラファエラ・アカデミア受講サポート」「発展協力会寄付講座」といった、様々な活動の支援に充てるなど、最大限有効に活用させていただいております。

2020年々初来続いていたわが国のコロナ禍も、今春になって漸く落ち着きを見せ始め、GW明けの5月8日には、感染法上の扱いが「2類相当」から（季節性インフルエンザと同じ）「5類」に引き下げられるなど、漸く「コロナ前の日常」が戻ってきました。こうした中、様々な制約を余儀なくされてきた本学にも漸く以前のような活気に満ちたキャンパスが戻ってきており、心から嬉しく思っております。

本学を取り巻く現下の経営環境は大変厳しいものがございますが、皆で力を合わせて頑張れば、必ず明るい未来が拓けてくると思います。引き続きご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



発展協力会会長  
江尻 敬

## 2022年度 寄付金の使途

皆様からの温かいご支援により、2022年度は531件、1,046万235円のご寄付をいただきました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。これらの寄付金は、次頁のとおり教育活動の支援等のために役立てさせていただきました。①では、留学準備講座の受講料やTOEFL ITP、DELE、IELTSの受講料の補助などを行いました。②では、台湾における外国人受入れの実情調査、留学先のスペインでの日本文化を広める活動に対して2名の学生に支援を行いました。③では、3年次生の成績優秀者に対して、10万円ずつ授与しました。④では、オープンキャンパス運営補助や留学生支援などを行うキャンパスキャストに対して、謝礼の図書カードを配布しました。⑤では在学学生に対するラファエラ・アカデミアの受講料補助を行いました。⑦では、当会の寄付金を原資として7講座を開講しました。⑧については、新型コロナウイルス感染症の流行が収束してきたことにより支出はありませんでした。

（次頁へ続く）

①グローバル人材育成支援金プログラム（98名）	973,600円
②チャレンジ支援奨学金（2名）	63,730円
③発展協力会学業奨励奨学金（10名）	1,000,000円
④キャンパスキャスト等への支援	700,000円
⑤ボランティア支援プログラム	0円
⑥ラファエラ・アカデミア受講サポートプログラム（110名）	144,100円
⑦発展協力会寄付講座（7講座）	183,757円
⑧新型コロナウイルス感染症に係る学生支援	0円
⑨国際交流基金への組入れ	7,395,048円

### 発展協力会 2022年度醸出金明細表

（2022年4月1日～2023年3月31日）

個人会員								法人会員		計	
(1)本学に在籍した者		(2)本学に在籍した者の父母および家族		(3)本学現旧教職員		(4)一般の有志		件数	金額	件数	金額
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額				
488	4,559,235	11	325,000	25	5,340,000	6	136,000	1	100,000	531	10,460,235

（単位：万円） 年度別寄付金（棒線グラフ）と寄付金件数（折れ線グラフ） （単位：件）



## 2023年度 寄付金の使途予定

寄付金の目標額を700万円に設定し、皆様からいただくご寄付については、主に下記のとおり活用させていただきたいと思っております。なお、支出実績が予算を下回った場合は、当会の趣旨に基づき、大学の財政基盤強化に寄与するため、国際交流基金に充当させていただく予定です。

皆様からのご寄付は、学生支援や教育・研究活動の充実のための資金として、有効に活用させていただきます。何卒ご賛同賜りますようお願い申し上げます。

①グローバル人材育成支援プログラム	180万円
②チャレンジ支援奨学金	140万円
③発展協力会学業奨励奨学金	100万円
④キャンパスキャスト等への支援	105万円
⑤ボランティア支援プログラム	30万円
⑥ラファエラ・アカデミア受講サポートプログラム	20万円
⑦発展協力会寄付講座	25万円

### 地球市民学科 4年 伊奈 東子さん

#### －奨学金の支給対象となった活動はどのようなものですか。

留学先の台湾で、外国人労働者の受け入れの実情について、3ヶ月間かけて調査しました。

週末の台北駅の広場では、本国にいる家族と電話を楽しむ外国人労働者を多く見かけます。少子高齢化が進む台湾社会は、日本と同じように外国人労働者に支えられているからです。日本で技能実習生について調査を行った経験から、台湾の実情を探るため、支援が必要な外国人労働者にシェルター提供を行う団体や外国人労働者のコミュニティを訪問し、インタビュー調査を行いました。

インタビューでは主に英語を使いましたが、外国人労働者コミュニティでは英語が通じないこともあり、翻訳機や中国語を使ってコミュニケーションを行いました。

#### －現地での活動を終え、今どのように感じていますか。

台湾は日本よりも外国人労働者にとって働きやすいのではないかと想像していましたが、台湾でも日本と同じように人権問題が起きていることが分かりました。

例えば、ヘルパーとして家で働いていた外国人労働者が介護者からセクハラ被害を受け、多言語相談窓口相談したものの、「我慢なさい」と言われたそうです。多言語対応の機関はあるものの、それが相談窓口として役に立っていないという現状がありました。一方、外国人労働者の各国のコミュニティを訪問した際は、とても賑やかで楽しい雰囲気でした。フィリピン人が多く集まるエリアではタガログ語でミサが行われ、2階に美容院やレストランなどのお店が並ぶビルがあり、別の場所に来たかのように感じました。また、台湾では彼らを「新移民」と呼んでいるのが印象的でした。

#### －この経験を今後どのように活かしていきたいですか。

今回の調査では、アポ取りや他の言語を使ったインタビューが特に難しかったです。事前準備の重要性を改めて感じたので、反省点を今後の研究に活かしていきたいと思います。

また、調査で訪れた、外国人労働者が集う国ごとのコミュニティでは、食べ物から服やアクセサリまで出身国の物がとりそろえられていて、レストランのメニューも出身国の言葉で書かれていました。

家族と離れ、孤独が生じやすい異国での生活ではそのようなコミュニティが彼らの重要な支えになっていると気が付きました。日本では、外国人労働者のコミュニティが現在どのくらいの規模で存在しているのか、日本人との関わりがどのように存在するのかに興味があります。次回は、台湾の状況と比較するため、日本の外国人コミュニティも見に行きたいと思っています。

#### －チャレンジ支援奨学金をめざす学生の皆さんへ、メッセージやエールがあれば聞かせてください。

チャレンジ支援奨学金は、私たち学生の「知りたい」がかなう、恵まれたチャンスです。奨学金の受給が決定し、報告書提出の時間的制限があったからこそ、責任を持って調査を行うことができました。

アポ取りや取材がうまくいかないこともありましたが、失敗も良い経験だったと思います。また調査中に、インドネシア人街で歌をプレゼントされたり、フィリピン人コミュニティで、初対面の人から「私の日本人の娘」と言ってもらったりするなど、思わぬ出会いや経験がありました。

領収書やレシートの管理は、レートの違いなどもあり少し大変でしたが、良い学びになりました。より多くの学生が自分の探究心に正直に、この奨学金に応募してほしいと思います。



台北駅から5分ほどで着くインドネシア人街。週末は多くの人が行き交い、賑やか。



桃園にある、雇用先から逃れてきた外国人労働者を保護するシェルターで取材中の伊奈さん。

### 英語英文学科 4年 荒井 遥華さん

#### —どのような学生生活を送っていますか。

将来、英語の教員になるという夢を叶えるため、大学では教職課程を履修し、日々勉学に励んでいます。

また、奉仕活動にも力を入れています。学外では、ローターアクトクラブに所属し、楽しく奉仕活動を行っています。ローターアクトクラブとは、ロータリークラブが提唱する、18歳以上の人々が集まり、リーダーシップと専門的なスキルを育みながら奉仕活動を行う団体のことです。私が所属し、幹事も務めているクラブでは、子ども食堂の遊びのボランティアをお手伝いしたり、地域の清掃活動を行ったりしています。このような奉仕を通じて、年齢や職業の異なる方々と出会うことにより、コミュニケーション能力が身につく、自己を成長させることができます。

#### —課外活動ではどのようなことに取り組んでいますか。

ラファエラ・マリアセンターの学生ボランティアグループ「Seoグループ」の代表を務め、ボランティア活動を行っています。

具体的な活動内容としては、年に数回の募金活動、アイシティーが行っているecoプロジェクトであるコンタクトケース集め、月一回程度、学内で回収したペットボトルキャップを業者に届け、UNICEFと連携して世界の子どもにワクチンを届けるエコキャップ活動、校内の花壇の一部を管理する花壇プロジェクト、ミャンマーからの技能実習生に送る冬の衣類募集などがあります。

メンバーが一丸となって活動に取り組めるように、メンバーに寄り添い、それぞれの意見を反映させることを意識して活動を行っています。これからも建学の精神に基づいたボランティア活動に積極的に取り組みたいと考えています。

#### —奨学金をどのように活用したいと考えていますか。

今回発展協会からいただいたご支援は、参考書・教科書代や実用英語技能検定の受験料として活用させていただきます。将来の夢である英語教員になるために必要な知識を深めるため、いただいたご支援を有効に活用し、今後とも勉学に努めていきたいと思っております。

#### —後輩たちへ向けてアドバイスやエールがあれば聞かせてください。

学業以外にもボランティアやサークル活動などに積極的に参加し、年齢、職業の異なる様々な方々と関わる機会を作ることが大切だと思います。私は幅広い年齢の方との交流を通して、目上の方とのコミュニケーションの仕方、自分とは違う物の見方や考え方を学ぶことができたと感じています。

また、学生生活を送る中で、将来への不安を感じた時、一人で悩まずに、キャリアサポート課やラーニングアドバイザーを訪ねてみてください。私も何度も相談にいき、明確なアドバイスをいただけたことで不安の解決策を見つけ、自信を持って前進することができました。

皆様の学生生活がより充実したものとなることを心から願っています。



東京葛飾中央ローターアクトクラブの「子ども食堂の遊びボランティア」での一枚。子どもたちの遊びの見守りを行いました。



Seoグループのクリスマス募金での一枚。（右端が荒井さん）

